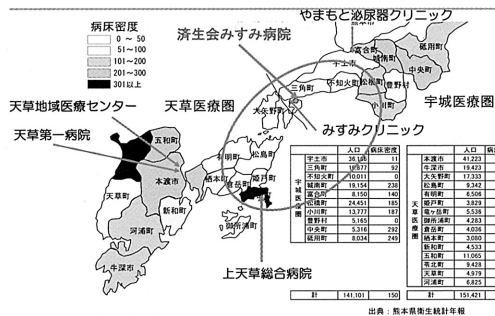


1. 診療圏

2006年5月より常勤医として就任以来、排尿障害、尿路結石、尿路悪性腫瘍の3本柱を中心に外来診療を行っている。天草地区には泌尿器科常勤医が少ないため、宇城地区（不知火、三角）・上天草地区を中心に南は松島、姫戸にいたるまで幅広い診療圏をカバーしている。

みすみ病院泌尿器科の診療圏



2. 診療の特徴

当科の最大の特徴は熊本市内の病院との連携およびネットワークが充実していることである。

例えば泌尿器部門で最近多くみられる前立腺癌や膀胱癌などの尿路悪性腫瘍に関して、当院で可能な検査は可能な限り行い、開腹手術など全身麻酔が必要な症例は済生会熊本病院へ紹介し、治療が終了した段階で紹介元の開業医へ逆紹介することを徹底している。また、当地区に多くみられる尿路結石においても、熊本泌尿器科病院などの体外衝撃波結石破碎術(ESWL)を有する施設と連携することにより迅速な治療を可能としている。

さらにMRIやCTなどの画像診断において、画像をネットワークで熊本病院に転送し、放射線科専門医に読影を依頼することにより画像診断の質の向上に努めている。また、検査技師2名が泌尿器領域の認定超音波検査士の免許を取得したことにより、泌尿器部門の腹部超音波検査の診断技術は今後さらに向上することが期待される。

一方、腎不全部門においても充実を図っており、保存期腎不全については開業医と協力して定期的に採血フォローを行い、透析導入期が近づくと当院にてブラッドアクセスを作成し、透析導入時に熊本病院に紹介している。その後の維持透析は、地元の透析病院に紹介する形をとっている。

3. 疾患の特徴

疾患の特徴としては、高齢者の比率が高いため排尿障害が最も多く、前立腺肥大症や過活動膀胱も多くみられるのが特徴である。

また、塩分過剰などの食事の影響からか腎臓結石や尿管結石などの尿路結石が多く見られ、体外衝撃波結石破碎術(ESWL)や経尿道的結石碎石術(TUL)の適応症例も多く見られる。

さらに近隣の開業医の間で、前立腺特異抗原(PSA)が測定できるようになってきたため、前立腺癌の早期発見が可能となったことなどが挙げられる。

4. 診療部門

泌尿器部門では排尿障害に対する治療が多く、前立腺肥大症や過活動膀胱に対する薬物療法が第一位を占める。特に尿閉の既往がある前立腺肥大症や薬物療法で効果が見られない例においては、経尿道的な内視鏡的手術(TUR-P)

を行っており今年度は11例行った。

また、PSA測定の普及に伴い前立腺生検も徐々に増加し、2泊3日の入院で検査時の痛みを和らげるために腰椎麻酔下の検査で、計47例行った。

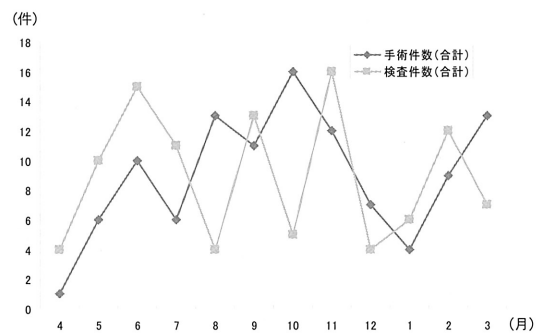
その他、慢性腎不全、特に透析導入前の保存期腎不全の患者も多く見られるため、当院にて数こそ少ないが導入前の内シャント作成やCAPDテンコフ挿入なども行っている。

当院での新しい取り組みとしては、夏に尿路結石に対する治療機器である結石破碎器(リトクラスタ)を購入したことにより、ESWLで治療が困難(碎石不良)な例や下部尿管の結石、膀胱結石などの治療が可能となり今後症例の増加が望まれるところである。

5. 手術件数

手術件数は総数108件(うち局麻症例15例)で検査件数は107例(うち膀胱鏡101例)であった。

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間総数
手術件数(合計)	1	6	10	6	13	11	16	12	7	4	9	13	108
検査件数(合計)	4	10	15	11	4	13	5	16	4	6	12	7	107



手術症例のうち前立腺生検が47例と全体の半分近くを占め、次いで経尿道的手術(TUR)が21例。経尿道的手術の中には前立腺肥大症に対する経尿道的前立腺切除術(TUR-P: 11例)と膀胱腫瘍に対する経尿道的膀胱腫瘍切除術(TUR-Bt: 10例)が含まれる。また尿管鏡を用いた治療手段として尿管結石に対する経尿道的尿管碎石術(TUL: 4例)、尿管腫瘍精査のための尿管鏡4例が含まれる。局所麻酔症例の中には慢性腎不全透析導入前やシャント閉塞時のブラッドアクセスとしての内シャント作成術(4例)も含まれる。

また、腹膜透析導入時のCAPDテンコフカテーテル挿入術(1例)も熊本病院からの医師の援助により行った。

泌尿器科常勤医一人体制なので、行える治療手段も薬物療法と低侵襲手術に限られているが、今後も熊本病院や市内の病院と協力しながら地域に根ざした泌尿器診療を行えるよう努力したい。

